

平成 28 年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	岩手県	担当機関名	岩手水技セ
種名	サワラ	対象水域	岩手県沿岸水域

1. 調査の概要

岩手県の主要港における水揚量集計値、および産地卸売市場における場内体長測定結果に基づき漁獲動向を評価した。

2. 漁業の概要

(1) 漁業種類：定置網主体

(2) 漁獲動向：本県におけるサワラの水揚量は平成17年度以降急増し、年変動はあるものの高い水準で推移している。平成23年度は東日本大震災の影響により大幅に減少したが、平成25年度には震災前を上回る水準まで回復している（図1）。平成28年度は、10月に水揚げが大きく増加した（図2）。主要港における定置網水揚量は463トン（前年比121.6%、平成23～27年平均比181.7%）で、近年でも高い水準であった前年を上回った。夏季以降の要因としては、東シナ海系群のサワラ資源量が高位で推移していることなどが考えられるが、詳細については今後検討が必要である。なお、本県におけるサワラの漁期は5～11月で、盛漁期は5月および8～11月である（高橋，2008）。

定置網漁獲物の尾叉長は、5～6月は45～50cm台（1歳魚）と65～70cm台（2歳～）主体で、7月は55cm台主体であった。8～11月は60～70cm台主体で、特に県南部で70cm台以上の大型の個体が多く見られた。また、10月～12月にかけて40～45cm台の0歳魚の加入が認められた（図3a、b）。

3. 生物学的特性

(1) 分布域：東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海

(2) 成長：満1歳で尾叉長45cm前後、満2歳で65cm前後（東シナ海系群）

(3) 産卵期等：産卵海域は東シナ海と黄海、産卵期は5～6月（東シナ海系群）

(4) 成熟年齢：雄雌ともに1歳の一部が成熟に達し、2歳以上では大部分が成熟する。（東シナ海系群）。先行研究において、本県で夏季以降漁獲されるサワラは性比がメスに偏ることが報告されている（高橋，2008）。

(5) 被捕食関係：稚魚期以降は魚食性（東シナ海系群）

(6) その他の生物学的特徴：岩手県で漁獲されるサワラは、漁獲動向および標識放流の結果より、日本海に分布する東シナ海系群が津軽海峡を通過して来遊するものと考えられており（戸嶋ら，2013）、漁期中の津軽海峡の表面水温と本県の水揚量には正の相関が認められている（高橋，2008）。

4. 資源状態

過去15年間における水揚量の最小値および最大値の間を3等分した基準値に基づくサワラの来遊量水準は高位、動向は過去5年間の傾向から横ばい傾向にあると判断された。

5. 資源回復に関するコメント

サワラ東シナ海系群の資源量は高位で推移している一方、本県におけるサワラの来遊量水準は漁獲の年変動が大きい。今後もモニタリング調査を継続し、動向に注視する必要があると考えられる。

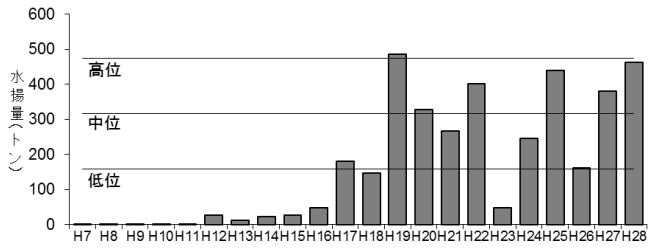


図 1 岩手県主要港における年度別水揚量の推移

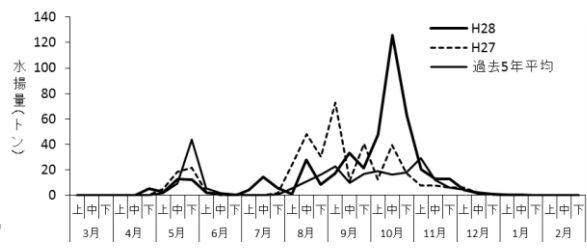


図 2 岩手県主要港における旬別水揚量の推移

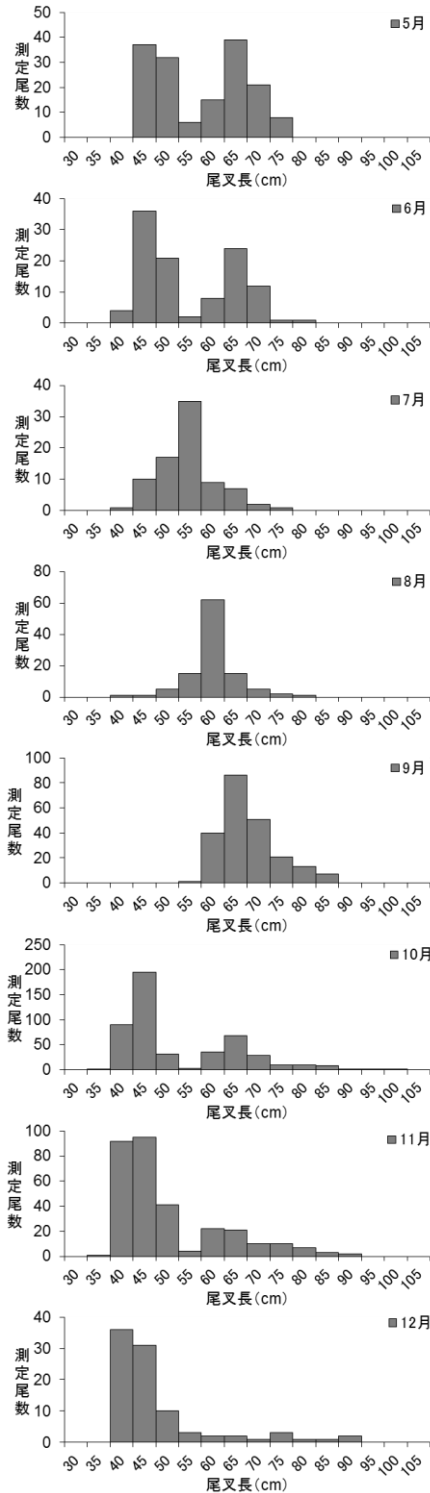


図 3a 久慈定置網におけるサワラ尾叉長組成

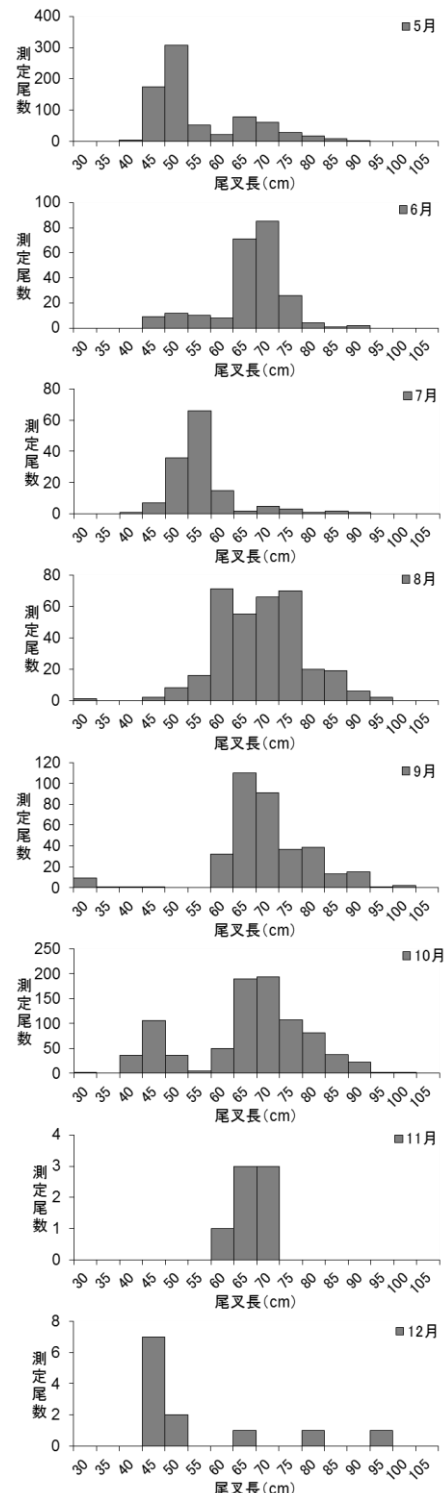


図 3b 釜石、大船渡定置網におけるサワラ尾叉長組成

平成 28 年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	宮城県	担当機関名	宮城県水産技術総合センター
種名	サワラ	対象水域	宮城県沿岸水域

1. 調査の概要

宮城県新総合水産行政情報システムによる県内主要10産地魚市場での水揚状況（速報値）と石巻魚市場での水揚物の体長測定から漁獲動向を把握した。

2. 漁業の概要

(1) 漁獲動向：宮城県におけるサワラの漁業種別水揚量の推移を図1に示す。2011年は、東日本大震災の影響により23トンと大きく減少したものの、2012年以降は増加傾向にあり、2016年の水揚量は311トンとなった。漁業種類別で見ると、2016年の定置網による水揚げが281トンと全体の90%を占めている。また、2016年における定置網の水揚げピークは、10月であった（図2）。

(2) 体長組成：2016年に石巻魚市場で測定したサワラの尾叉長組成を図3に示す。体長組成は40cm台～90cm台の範囲であり、期中のモードは66cmであった。

3. 生物学的特性

サワラは、日本周辺では東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海に分布し、特に西日本では重要な魚種の1つとなっている。宮城県では、平成12年以降定置網による水揚げが増加している。

サワラは、1998年以降日本海における漁獲量が増加しており、その要因の一つとして日本海の海水温と深い関係があるとされている（為石ら（2005年））。また、日本海北区と宮城県定置網の漁獲量に正の相関があることから（図4）、日本海の海況変動に伴う回遊経路の変化により、日本海から津軽海峡を通過して春季と秋季に本県沿岸水域へ来遊するサワラが増加しているものと考えられる。

4. 資源状態

本県のサワラ水揚量は増加傾向にある。サワラ東シナ海系群の資源状態は高位水準で増加傾向にあることから、本県への来遊量も同様に推移しているものと思われる。

5. 資源回復に関するコメント

サワラ東シナ海系群の資源評価に基づく資源管理方策の提言に基づき、持続的な利用を図ることが必要である。

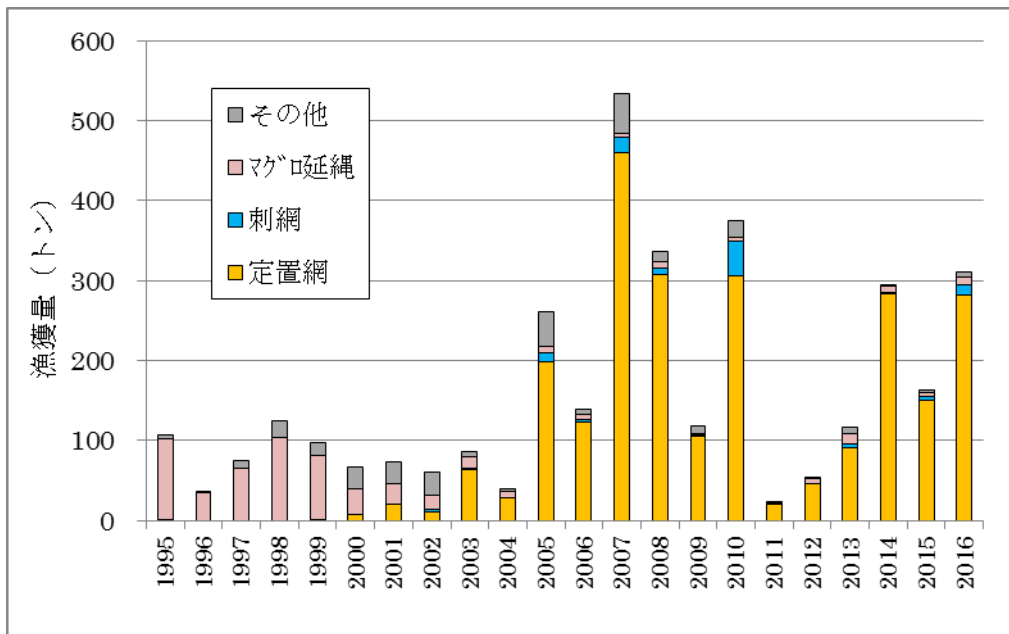


図1 サワラ水揚量の推移

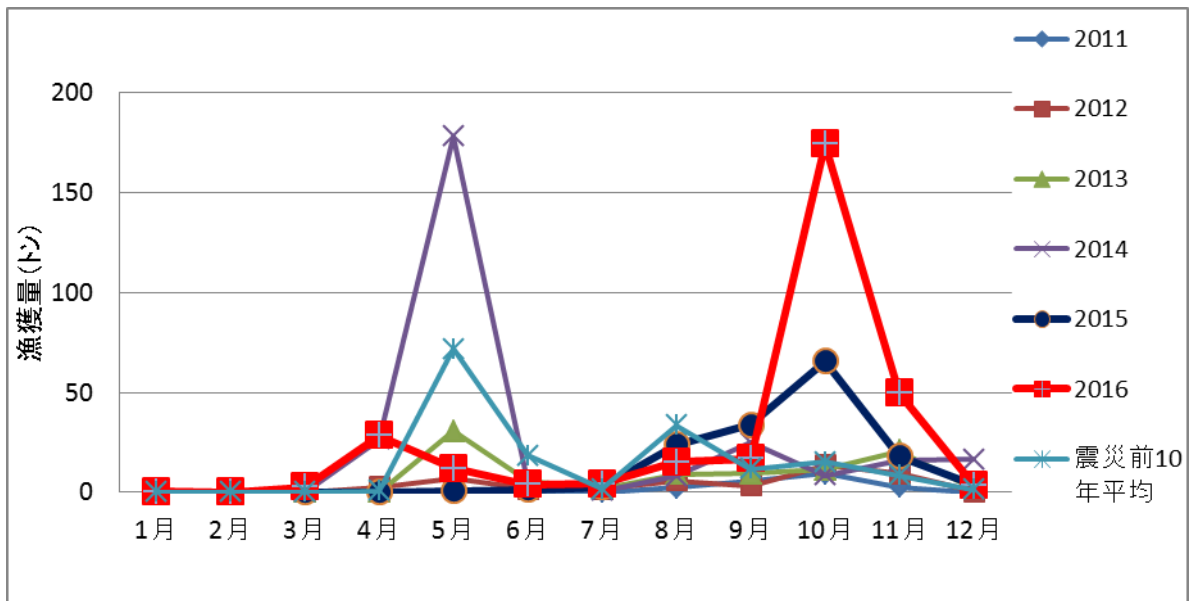


図2 定置網によるサワラ月別漁獲量の推移

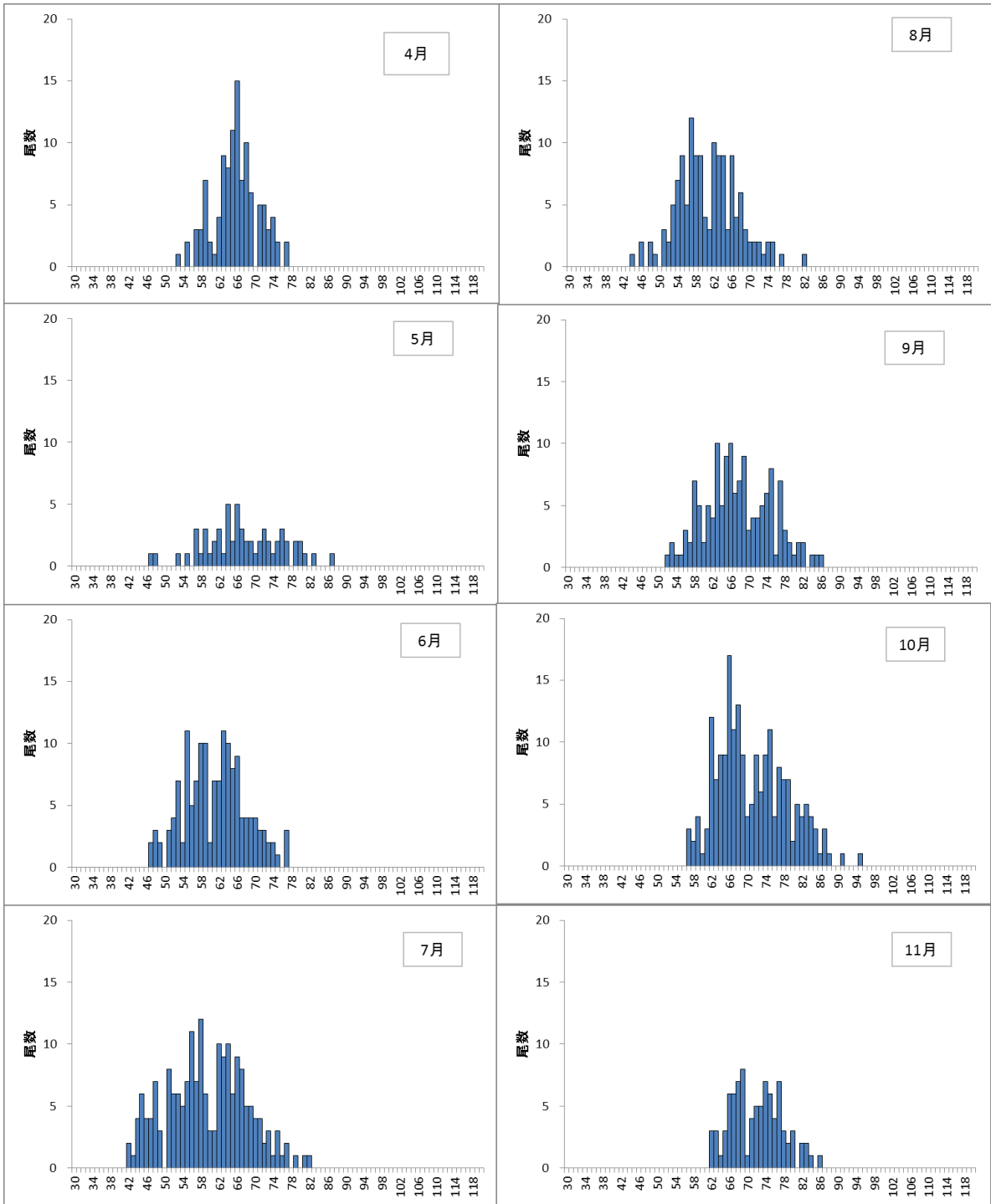


図3 2016年の石巻魚市場におけるサワラの月別尾叉長組成

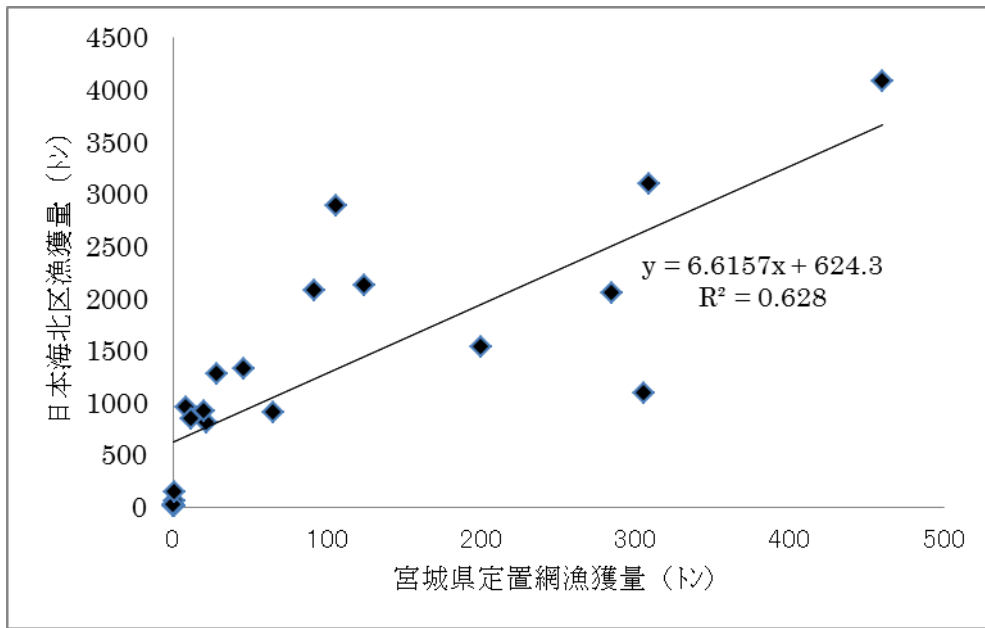


図4 日本海北区と宮城県定置網のサワラ漁獲量の相関